

講義名	研究演習 (経)		
講義コード	25225	授業形態	開講期・曜日・時間 後期 火曜日 5時限
担当教員	内山 勝久	ゼミ・演習・科目コード	SEM250

学部・学科	演習分野
経済学部(経済学科・経済情報学科)	企業行動と経済・環境

概要説明

皆さんの大部分は職業生活のかなりの時間を企業で過ごすことになります。企業は社会の重要な構成員であり、持続可能な社会の構築においても重要な役割を果たすことが期待されています。

このゼミでは経済学、企業会計、環境学の知見を習得しながら、企業行動あるいは企業で必要になるスキルを多面的かつ実践的に学びます。

研究演習

企業行動の結果の一部は「決算書」として表れます。2年次後期には以下の教科書を皆で輪読して、決算書の読み方の基本を習得するとともに、決算書から読み取れる業界の特徴やビジネスモデルの違いなどの理解も深めます。

<教科書>

- 『会計クイズを解くだけで財務3表がわかる 世界一楽しい決算書の読み方』(大手町のランダムウォーカー(著), KADOKAWA, 2020年)
- 『会計クイズを解くだけで財務3表がわかる 世界一楽しい決算書の読み方【実践編】』(大手町のランダムウォーカー(著), KADOKAWA, 2022年)

【備考:今後の計画】

研究演習 (3年次)

以下の教科書を1年間かけて皆で輪読して、企業行動を経済学の視点から理解します。また、後期には卒業論文のテーマと大まかな内容も考え始めます。

<教科書>

- 『ビジネス・エコノミクス(第2版)』(伊藤元重(著), 日本経済新聞出版, 2021年)

履修者数が多くて(おおむね7名以上)、輪読によるゼミ運営が困難であると判断される場合、あるいは研究演習 での様子から輪読による学修効果が低いと判断される場合は、研究演習 の内容をPC演習による統計学や情報処理に変更する可能性があります(基礎的な統計学や情報処理は社会で必要とされる重要なスキルです)。

研究演習 ・卒業論文(4年次)

前期は、企業が発行する「総合報告書」や「サステナビリティ報告書」を読んで、企業行動を環境やサステナビリティの観点から理解します。それと並行して卒業論文執筆の準備(論文の構成の検討や資料の収集)、別途定める研究演習 の成果物の準備を開始します。

後期は、それまでに学んだ知見を総合的に活用・駆使して、各人が卒業論文あるいは研究演習 の成果物をまとめます。

演習効果を高めるために、受講生と相談の上で計画を修正する可能性もあります。

主な卒業論文のタイトル

2024年度から新規開講のゼミですので、卒業論文指導実績はまだありません。

【備考】

卒業論文のテーマや内容は、経済に関連するものやデータを扱うものであれば、基本的に自由にするつもりです(環境と経済に関連するものであればさらに嬉しいです)。各人の問題意識を大事にしてください。

教員からの要望

- ・「輪読」は経済学科の他のゼミでも採用されているオーソドックスな学修方法です。具体的な進め方については検索して調べてください(輪読が集まったゼミ生には適さないようであれば、研究演習IIからはゼミの内容を手動かPC演習に変更する可能性があります)。
- ・ゼミは学生主体の学びの場です。ゼミの雰囲気をもっと楽しくするのも暗くつまらないものにするのも学生次第です(教員としては明るく楽しい、皆で協働して成長し、生涯の友人を得られるようなゼミとなることが理想と考えています)。
- ・学生が主体的に行動することが期待されていますので、受け身の姿勢(ただ座っているだけで何も発言しないなど)では得られるものは何もありません。遠慮したり恥ずかしがりせず、ゼミ活動や仲間との交流に積極的に関わることが求められます。
- ・ゼミでの学びを有益なものにするためには、教科書や資料の毎回の予習が不可欠ですし、極めて重要です。毎回の予習に十分な時間を確保できない人や怠慢な人には、このゼミはおすすりません。
- ・ゼミは社会に出るための準備の場でもあります。無遅刻無欠席であることはもちろんのこと、自分なりの疑問や課題を持ち、さまざまな授業で学んだ知見を駆使して仲間と協力しながら解決を図り、その成果を報告できるようになるためのトレーニングの場であることを強く意識してください。

選考方法

- ・提出された応募書類、面接、および学業成績を総合的に評価することにより選考します。
- ・事前に個別ガイダンスを開催する予定です(詳細は別途お知らせします)。入ゼミを希望する学生には個別ガイダンスへの参加を義務付けます(ガイダンス参加者を選考対象とします)。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・平常点(70%)および成果物の出来栄(30%)で評価します(平常点だけでは単位認定はできません。成果物の提出も単位認定の必要条件となります)。 ・平常点は、出席状況(ゼミは無遅刻無欠席が原則です)、発表や討論の質と量、受講態度、ゼミ活動への貢献度(リーディングの発揮や企画等の提案、雰囲気作りへの貢献など)を総合的に評価します。 ・成果物は後述のとおりであり、毎回の予習やゼミ参加準備の水準を評価対象とします。 ・正当な理由のない欠席が多い学生や受講態度不良の学生は、除名することがあります。

到達目標・成果物

<到達目標>

- ・財務3表(貸借対照表, 損益計算書, キャッシュフロー計算書)の記載内容を理解し, 各表の違いを他者に説明できるようになる。
- ・財務3表や有価証券報告書を読んだり分析したりして, 業界の特徴や企業のビジネスモデルの違いを理解し, 他者に説明できるようになる。
- ・プレゼンテーション力(発表力, 説明力), 質問力, 討論力を向上させる。

<成果物>

- ・到達目標達成度評価の要素として, 発表用のレジュメを成果物とします。
- ・発表用のレジュメは, 発表の有無に関わらず履修者全員に毎回準備してもらいます。毎回のゼミ開始時刻までにレジュメのファイルをキャンパスクロス経由で提出してもらいます。

教員英字氏名	研究室
Katsuhisa UCHIYAMA	研究棟 2605室

最終学歴

一橋大学経済学部

学位

経済学士

主な研究活動・社会活動・研究業績

【著書・共編書】

- ・Environmental Kuznets Curve Hypothesis and Carbon Dioxide Emissions, (SpringerBriefs in Economics: Development Bank of Japan Research Series), Springer, 2016年。
- ・『日本経済 社会的共通資本と持続的発展』間宮陽介・堀内行蔵・内山勝久【編】。東京大学出版会, 2014年。
- ・『格差社会を超えて』宇沢弘文・橋本俊昭・内山勝久【編】。東京大学出版会, 2012年。
- ・『21世紀の都市を考える 社会的共通資本としての都市2』宇沢弘文・國則守生・内山勝久【編】。東京大学出版会, 2003年。

【最近の研究論文等】

- ・『サステナビリティ活動と企業価値 DBJサステナビリティ評価認証融資による実証分析』RCGW Discussion Paper Series, No. 69, 日本政策投資銀行設備投資研究所, 2024年。(共著)
- ・『公害防止投資と資金調達 1970-90年代電力企業の実証分析』『流通科学大学論集 経済・情報・政策編』, 第31巻第2号, 57-71頁, 2023年, 流通科学大学(単著)
- ・『産業公害の克服と金融の役割の再検討 1970年代開銀公害防止融資の実証分析』『経済経営研究』, Vol. 41, No. 2, 日本政策投資銀行設備投資研究所, 2020年。(共著)
- ・『社会課題の解決と金融機関の役割 ESG融資としての日本政策投資銀行の評価認証型融資』『研究報告 CSR白書2019 SDGsの企業経営への影響』, 116-125頁, 東京財団政策研究所, 2019年。(単著)

趣味・特技

- ・旅行(国内・海外)、とくに鉄道旅行が好きです。訪れたまちをブラブラ歩くのも好きです。
- ・ラーメンの食べ歩き(種類全般が好きです)。

所属

経済学部 経済学科

所属学会

環境経済・政策学会
日本経済学会

専門分野

環境経済学・環境経営論
研究の関心: 企業の環境配慮行動と資金調達に関する実証分析

担当科目

環境経済論, 地域環境政策, 都市環境論, 地域観光政策, 金融論(経済学部), 業界研究(金融), 日本事情B【留学生科目】

備考

指導可能分野: (主) 環境経済・環境経営, (副) 日本経済, 金融
環境分野については、興味のある環境問題が一人ひとり異なる場合が多いので、4年次の卒業研究(卒論指導)での個別指導とする予定です(要望があれば2, 3年生にも随時個別指導します)。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
銀行(政府系金融機関)に31年間勤務しました。銀行の融資部門では企業を多面的に審査する金融実務に携わりました。管理部門も経験しましたが、長年にわたり調査研究部門での業務に従事しました。銀行で経験した企業の見方をゼミでの学修でも活用したいと考えています。